

---

# 天使のいた村

みえさん。

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

天使のいた村

### 【Nコード】

N5926B

### 【作者名】

みえさん。

### 【あらすじ】

その村には、一人の少年がおじいさんと一緒にくらしていました。

## （前書き）

宮沢賢治の童話学習の時に書いた一部残酷な描写を含む童話です。  
童話とはいえ大人向きにいますので、残酷な描写が苦手な方は読まないことをオススメします。

昔々、天使の村がありました。本当に天使が住んでいたのではなく、そこに住む

人々が、皆銀色の髪をもち、天使のように美しかったのです。そんなわけでその村

は天使の村とよばれていました。

この村に、黒髪の少年が住み始めたのはどのくらい前になるのでしょうか。誰も

正確には知りません。どうしてここに住みはじめたのか、彼自身も知りませんでした

た。ただ不幸なことに黒髪は災いをもたらすとされていたので、村人はどうにかし

て追い出そうとしていました。でもだめだったのです。村で一番偉いおじいさんの

ところに少年が住んでいたからです。けれど少年が一人のときには、あからさまに

嫌ってみせました。そんな時、少年はただ悲しそうに笑うだけでした。

一年ほど前、村の鶏が死んでいたことがありました。村の人は少年が殺したので

はないかを言いました。

「ぼくではありません」

「うそだ。小屋から逃げるお前を見た者がいるのだ！」

「ああ、何かの間違いです。ぼくは小屋には行っていないせん」

誰も少年の言葉を信じませんでした。

誰かが罪を償えと言いました。村の掟で、盗みと殺しをした者は目を失うか、村

を出なくてはなりませんでした。

「さあ、選べ。目か村か！」

「本当にばくじゃないんです」

今まで黙っていたおじいさんが言いました。

「その子が違うというのなら違うのであろう。信じてあげなさい」

「では、誰がやったというのです。誰がこの罪を償う？」

「ならば・・・、私の目をやろう！」

おじいさんは自分の目をえぐりました。誰かが悲鳴あげ、目をそむけました。血

がまるで涙のようでした。

おじいさんは目をおさえていました。

「みな生きるためにはものを盗む。盗まねば生きられぬ。私は鶏と罪を盗もう」

誰も何も言いませんでした。何も言えませんでした。

「さあ帰ろう」

おじいさんは言いました。

「鶏を連れて帰ろう」

少年は泣きました。おじいさんは笑えと言いました。泣く必要がないから笑えといいました。

鶏は食べました。

口の中に入れると血の味がして、何だか気持ちが悪くて吐きそうになりました。

それでも押し込むように食べると、今度は涙が出てきました。

「人は盗みすぎる。今度この世に生まれてくるときは、人でないものに生まれたい」

おじいさんは悲しそうに笑いました。

一年後、おじいさんが病気になってしまうと、村人は少年に言いました。

「すべてお前のせいだ。出てゆけ！ お前は災いだ」

「いいえ、ぼくはここにいます」

少年があまり強く言ったので村人はもう何も言わず、かえってゆきました。

村人がいなくなるとおじいさんは言いました。

「私はそろそろ行かねばならぬ」

「いけないでください。おじいさんがいなくなってしまったら、ぼくはどうしてい

きられましょうか？」

「私は大きな木になる。世界のどこにお前がいたとしてもお前の姿が見えるようお

おきくなるう」

おじいさんは笑いました。それきり動きませんでした。

少年は白いシートをおじいさんに着せました。風になびくそれは、まるで天使の

翼でした。

その後、少年がどこへいったのか、知る人は誰もいません。

ただ近くの丘の上で小さな木が、静かに風にゆれていました・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5926b/>

---

天使のいた村

2010年12月7日15時12分発行